

科目ナンバリング	G-AAA02 52402 LJ31				
授業科目名 <英訳>	農業生態論	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 伊谷 樹一		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
<p>アフリカの農業を、生態環境（気候、土壌、地形、植生など）、農耕体系（農耕技術、作物、生業複合、土地利用など）、文化（食、物質）などの多角的な視点から総合的に解説する。また、現代のアフリカ農村が直面している諸課題についてその原因を説明し、解決策にむけた取り組みを紹介する。</p>					
[到達目標]					
<p>現代アフリカにおける農業の実態を具体的な事例をもとに理解し、生態・社会・文化・歴史の各視点からその現状を総合的に把握できるようになる。また、農村の直面している土地争い、エネルギー不足、環境劣化などの実態を理解するとともに、課題間の相互関係を踏まえて解決策を考えることができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1～3回 アフリカ大陸の気候と地形 第4回 乾燥地域の生業 第5回 半乾燥地域の生業 第6回 湿潤地域の生業 第7回 生態環境と農耕体系（総論） 第8回 アフリカの食文化 第9回 アフリカの課題 1．食料事情 第10回 アフリカ農業の課題 2．エネルギー事情 第11回 アフリカ農業の課題 3．生態資源の利用と保全 第12回 農業の集約化 第13回 平準化機構とと環保全 第14回 環境を保全する試み 第15回 総括</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
レポート					
----- 農業生態論 (2)へ続く -----					

農業生態論 (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

掛谷誠・伊谷樹一 『アフリカ地域研究と農村開発』 (京都大学学術出版会) ISBN:978-4-87698-989-8

松田素二 [編] 『アフリカ社会を学ぶ人のために』 (世界思想社) ISBN:978-4-7907-1616-7

日本アフリカ学会 [編] 『アフリカ学事典』 (昭和堂) ISBN:978-4-8122-1415-2

伊谷樹一 『生態人類学は挑む つくる・つかう』 (2023) ISBN:978-4-8140-0441-6

[授業外学修 (予習・復習) 等]

予習・復習を必ず実施する。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52604 LJ31			
授業科目名 <英訳>	アフリカ環境学 Environmental Studies in Africa		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 大山 修一 アジア・アフリカ地域研究研究科 特定助教 塩谷 暁代	
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
<p>近年、アフリカで調査をしていると、さまざまな変化に目を奪われることが多くなりました。物流や外資系企業の活動などの経済の動き、自然資源の利用や生態系への影響、選挙や法律の改変など、その変化は多岐にわたります。この授業では、アフリカの現代的な諸相を深く理解し、フィールドワークの素養を習得することができることをめざし、講義や実習、文献講読を通じて、アフリカの自然、生態、文化、生業に関するフィールドワークの実際とそのフロンティアをみなさんと考えていきます。</p>					
【到達目標】					
<p>サハラ以南アフリカにおける自然や社会、文化に関する理解をふかめるとともに、基礎的なフィールドワークの技法を身につけることを目標とします。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>講義は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．はじめに：授業の概要 2．アフリカの自然 その1 3．アフリカの自然 その2 4．アフリカの自然 その3 5．農産物の市場流通とバリューチェーン 6．消費生活と廃棄物 7．土地制度 8．グローバリゼーションと飢餓・貧困問題 9．換金作物の栽培と熱帯林の消失 10．気候変動と砂漠化 11．都市と農村の物質循環 12．農耕民と牧畜民の武力衝突 13．テロはなぜ起きるのか。 14．地域研究と社会貢献 15．まとめ <p>授業内容は、受講者の人数や興味によって変化することもあります。また、講義の順番を変えることもあります。フィールドワークにおける基本的な技法（データの取得、まとめ方）について、実習を取り入れることも予定しています。</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- アフリカ環境学 (2)へ続く -----					

アフリカ環境学 (2)

[成績評価の方法・観点]

評価は、授業への理解（50%）と実習に対する期末レポート(50%)で評価します。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各回のテーマと関連させて、フィールドワークにおける基本技法（データの取得、および分析方法）を学ぶ実習も予定にしています。この実習では、室内/野外で簡単な作業をしたり、あるいは室内でノートパソコンを使い、マイクロソフトのエクセルとフリーのソフトウェアを使います。時間外に作業をしていただくこともあります。

（その他（オフィスアワー等））

月と水、木曜日の夕方（16時～18時）をオフィスアワーとしていますが、現在、クロスアポイントメント中で学外勤務や海外出張、他用務などもあるので、空振り避けるため、事前にメール連絡してください。

メールアドレスはoyama.shuichi.3r[@]kyoto-u.ac.jp です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA02 82404 LJ31				
授業科目名 <英訳>	生態史論 Historical Ecology	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 安岡 宏和		
配当学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
<p>動的ランドスケープのなかでの多種多様な生物と人間の相互関係とその歴史的变化にアプローチする生態人類学・マルチスピーシーズ歴史生態学について、コンゴ盆地の熱帯雨林における具体例をとりあげながら講義し、基礎文献を講読する。そのうえで、生物多様性保全や持続的な地域開発にかかわる諸問題へのとりくみにおいて、生態人類学・マルチスピーシーズ歴史生態学の研究がどのように貢献しうるかについて議論する。</p>					
【到達目標】					
<p>(1) 生態人類学・マルチスピーシーズ歴史生態学のなりたち、理論、方法を理解する。 (2) 人々の実践や知識、また広域における政治・経済のうごきが、多種多様な生物と人間をどのように関係づけ、地域のランドスケープをどのようにかたちづけてきたのかを、具体例をとおして理解する。 (3) 生態人類学・マルチスピーシーズ歴史生態学の研究が、生物多様性保全や持続的な地域開発にかかわる諸問題にとりくむうえで、どのように有用であるかを理解する。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>(1) イントロダクション (2) 生態人類学の理論的フレームワーク (3) 生態人類学の理論的フレームワーク (4) 生態人類学からマルチスピーシーズ歴史生態学へ (5) 生態人類学からマルチスピーシーズ歴史生態学へ (6) 文献講読、ディスカッション (7) 文献講読、ディスカッション (8) 文献講読、ディスカッション (9) 文献講読、ディスカッション (10) 文献講読、ディスカッション (11) 文献講読、ディスカッション (12) 文献講読、ディスカッション (13) 文献講読、ディスカッション (14) 文献講読、ディスカッション (15) 文献講読、ディスカッション</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 生態史論 (2)へ続く -----					

生態史論 (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点 (100%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

安岡宏和 『アンチ・ドムス：熱帯雨林のマルチスピーシーズ歴史生態学』（京都大学学術出版会，2024年）

(関連URL)

<https://sites.google.com/kyoto-u.ac.jp/yasuoka/>(担当教員のウェブサイト)

<https://sites.google.com/view/casinkyoto/>(中部アフリカ研究 in Kyoto)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介した文献を読むこと

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA02 52405 LJ31				
授業科目名 <英訳>	地域生態論 Ecology for Area Studies	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 佐藤 宏樹		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金4	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
<p>地域とは地理的な条件や歴史的な経緯によって特徴づけられる空間である。生態学とは生物が環境や他の生物と関わりながら生きている実体を理解する学問であるが、対象となる空間の地理や歴史を考慮しながら生物やヒトの生き様を理解する地域生態学は地域研究に有効な学問となる。本科目では講師が調査対象とする地域を例に挙げながら、その地域を生態学的に理解するためのアプローチについて解説していく。</p>					
【到達目標】					
<p>自身が調査地に赴いた際に、その地域の自然環境や生物資源、社会の特性を生態学的に理解するために必要な理論と方法を習得すること。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下の項目について、解説していく。下記の授業の回数は目安であり、授業の進捗状況や理解度によって変更する場合がある。</p> <p>以下の項目について、解説していく。下記の授業の回数は目安であり、授業の進捗状況や理解度によって変更する場合がある。</p> <p>[第1-3回] 地域の自然環境（アジア・アフリカとはどのような空間なのか、自然環境の地理と歴史から理解する）</p> <p>[第4-6回] 動植物の地域生態（地域特有の自然環境で生きている動植物の生態を学ぶ）</p> <p>[第7-9回] 人間活動と地域生態（地域特有の自然環境でヒトがどう生き、どのように生態環境を改変してきたのかを学ぶ）</p> <p>[第10-12回] 生態学と地域研究（生業生態、生態系サービス、ランドスケープ管理などから生態学と地域研究の接続を考える）</p> <p>[第13-15回] 課題発表（地域生態学に関する課題を各受講生が発表し、その内容について討論する）</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
講義への積極的な参加と応答、および課題発表に基づいて評価する。					
----- 地域生態論(2)へ続く -----					

地域生態論(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52503 LB31			
授業科目名 <英訳>	相互行為論 Interaction Studies		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 高田 明	
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
Using multi-disciplinary research data I have collected, this course discusses the entwined relationships between human activities and the environment with special emphasis on the exchange of various natural and social resources among people in contemporary African societies. Each year, I will select a theme pertaining to this subject and develop empirical and theoretical arguments together with the course participants. In the 2025 course, we will reconsider the natural history of childrearing, based on both the lecturer 's field research on several groups of San and the literature review of the relevant studies.					
【到達目標】					
In this course, we will develop the above areas of interest by analyzing selected domains of Interaction Studies based on the lecturer 's field research.					
【授業計画と内容】					
This course deals with the following topics, each of which lasts one or two weeks. The topics may be modified according to the interests of the class. The lectures are given mostly in English, although I will use Japanese if all of the students are Japanese.					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Crisis of child-rearing? 2. The Bushmen of the Kalahari 3. Reconsidering natural history in Linnaeus, Rousseau, and Darwin 4. Learning from nature, growth through play 5. Restoration of the myth of motherhood 6. Methodology of psychology and anthropology 7. Development of caregiver-child interaction 8. Caregiving behaviors using infant reflexes 9. Development of joint attention and early vocal communication 10. Establishment of secondary intersubjectivity and imitation 11. Socialization in group activities 12. Transition from play to work 13. Crisis of child-rearing revisited 					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
Grading is based primarily on reports and class discussions, with weight given to active engagement in class.					
【教科書】					
Handouts will be provided in class.					
----- 相互行為論(2)へ続く -----					

相互行為論(2)

[参考書等]

(参考書)

高田 明 『ブッシュマンの子育て: 狩猟採集社会の自然誌』 (ミネルヴァ書房, 近刊)

Reference articles and books will be assigned in class.

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Students will be required to submit two reports, one at the beginning and one during the middle of the course. Details about these reports will be provided in class.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52504 LJ31			
授業科目名 <英訳>	生業とものづくり Livelihoods and Creativities in Africa		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 金子 守恵	
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火5	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
<p>現代のアフリカに暮らす人びとを理解するための中心的な対象のひとつは、彼ら・彼女たちが日々を生きていくための生業活動である。講義では、講師がこれまで調査研究をおこなってきたエチオピアでの生業活動（土器製作、農業、土産物製作）を対象に、フィールドワークという手法をもちい、ヒトと「もの」の関係に着目して彼らの生業活動にみいだされる特性を提示する。それをふまえたうえで、受講生とともに、アフリカに暮らす人びとが日々変化する諸環境への対応の仕方、ヒトと「もの」の関係に注目したフィールドワークの可能性、そして調査者が外部者としてフィールドに関わることの可能性について議論する。</p>					
【到達目標】					
<p>ヒトと「もの」の関係に注目して、現代アフリカに暮らす人びとによる生業活動へアプローチする手法を理解したうえで、日々変化する諸環境への彼ら・彼女たちの対応の仕方について受講生とともに議論、考察する力を身につけます。</p>					
【授業計画と内容】					
第1回目	イントロダクション				
第2回目	生業活動としてのものづくり 1 つかう				
第3回目	生業活動としてのものづくり 2 つくる				
第4回目	生業活動としてのものづくり 3 まなぶ				
第5回目	生業活動としてのものづくり 4 売る				
第6回目	ヒト-「もの」関係とフィールドワークの可能性 1				
第7回目	農耕活動におけるヒト-「もの」関係 1				
第8回目	農耕活動におけるヒト-「もの」関係 2				
第9回目	農耕活動におけるヒト-「もの」関係 3				
第10回目	農耕活動におけるヒト-「もの」関係 4				
第11回目	ヒト-「もの」関係とフィールドワークの可能性 2				
第12回目	あらたな生業活動とヒト-「もの」関係 1				
第13回目	あらたな生業活動とヒト-「もの」関係 2				
第14回目	ヒト-「もの」関係とフィールドワークの可能性 3				
第15回目	フィードバック				
【履修要件】					
特になし					
----- 生業とものづくり (2)へ続く -----					

生業とものづくり (2)

[成績評価の方法・観点]

レポートと授業への積極的な参加を評価します。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義中に適宜指示します

(その他(オフィスアワー等))

事前にメール等にて連絡してください。個別に対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA02 52403 LJ31				
授業科目名 <英訳>	野生動物保全論 Wildlife Conservation	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 山越 言		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金4	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
<p>野生生物の保全は、世界各地のさまざまな生態系がもつ生物多様性を維持するための地球規模の問題群を構成する。いっぽう、これらの動物と接して暮らす人々にとっては、固有の歴史と動物観に基づいた、地域特有な問題群の一部となっている。野生動物保全をグローバルとローカルが交差する現代的問題のひとつとして捉え直し、関連する基礎的な概念について、読解・討論を通じて理解する。</p>					
【到達目標】					
<p>授業で取り上げるキーワードについて基礎知識を身につけ、それを用いて討論し、各自のフィールドワークの現場で生かすことができる新たな問題意識を獲得する。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回目の授業時に日程・内容に関して受講者と相談ののちに決定する。下記は暫定的なモデル案。</p> <p>第1週 授業方針についての説明。</p> <p>第2-7週 自然保護の多様なアプローチを具体例を用いて紹介する。 主要な論点：「誰が」「どのような自然を」「どのような手段で」「何のために」護るのか、「保全と保存」論争、実用的価値と超越的価値、人為的介入の是非、保護区と植民地主義、</p> <p>第8-10週 自然保護に関して行った議論を、地域研究における隣接分野に応用し、理解を深める。 主要な論点：参加型開発論、人道的介入、市場と新自由主義、全体主義と自然保護</p> <p>第11-15週 参加者の関心に応じてキーワードを選び、特定の問題群について議論を行う。 キーワード例：生物多様性、環境持続性、外来種問題、レジリアンス、エコロジー思想、「木は法廷に立てるか」論争、「動物の権利」論争、公民権運動と自然保護思想、動物愛護と共感、アルピニズム・探検の思想、「自然美」概念、風景画の誕生と変遷、ネイチャーライティングと交感、宗教と環境保全</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
質問、意見等による講義への主体的参加、討論における積極性を評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
----- 野生動物保全論 (2)へ続く -----					

野生動物保全論 (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

討論のテーマについての予習・復習を求める。
討論の内容次第で、指示した文献について適宜事前読解を求めることがある。

(その他(オフィスアワー等))

講義時に必要に応じ指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA02 82606 LJ31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ人文学 African Humanities		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 中尾 世治	
配当学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	その他	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
<p>本授業では、アフリカにおける、アフリカの人びとによる人文学 哲学、文学、歴史、宗教、芸術等 をとりあげ、その歴史的・同時代的な意義を論じる。本年度は、アフリカ研究、およびポストコロニアル研究において、古典となっているV. Y. Mudimbe (1988) The Invention of Africa : Gnosis, Philosophy and the Order of Knowledge, Indiana University Pressの講読をおこなう。本書は、通俗的には、サイードの『オリエンタリズム』のアフリカ版のような理解がなされているが、実際には、1960年代から1970年代においてアフリカ諸国で出版された哲学・思想をふんだんにとりあげ、1980年代までのアフリカの知についての総括を目指した、いわば、アフリカの思想史として読むことができる。本書を通して、アフリカの思想史の歴史的・同時代的な意義を理解し、その理解を深めることが、本授業の目的である。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の学術的な書籍を一冊読みこなす能力を養う。 ・ テクストの読解の方法を理解し、実践する。 ・ アフリカ人文学の一端を具体的に理解する。 					
【授業計画と内容】					
<p>1. イントロダクション 2-14. 文献講読 15. まとめ</p> <p>なお、イントロダクションにおいて、発表の分担割当をおこなうので、必ず出席すること。</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
評価は、分担発表（30%）と平常点（70%）でおこなう。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
----- アフリカ人文学(2)へ続く -----					

アフリカ人文学(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

履修者は授業中に適宜紹介する参考文献にも目を通しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52807 LJ31			
授業科目名 <英訳>	熱帯病学 Tropical Diseases	担当者所属・ 職名・氏名	関西医科大学 名誉教授 西山 利正		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
アジア・アフリカ研究科ではアジア・アフリカ地域でのフィールドワークを行う研究者が多い、ところがこれらの地域は我が国に見られない種々の感染症を中心とした疾病が見られる。これらの疾病に対する知識を深め、健康に研究を遂行するための諸知識を習得する。					
【到達目標】					
学生の調査地における風土病に関する知識を身につけ、フィールド調査時における自己の健康管理ができ、熱帯地域における感染症の予防や罹患した時の治療の説明ができるようになる。					
【授業計画と内容】					
第1回：熱帯病学総論 第2回：カ媒介性疾患1（マラリア） 第3回：カ媒介性疾患2（デング熱、黄熱、チクングニア、西ナイル熱など） 第4回：カ媒介性疾患3（バンクロフト系状虫症、マレー系状虫症など） 第5回：ダニ媒介性疾患（恙虫病、紅斑熱、ダニ脳炎、クリミア・コンゴ熱、ライム病など） 第6回：ハエ媒介性疾患（リーシュマニア症、アフリカ睡眠病、回旋糸状虫症、ロア糸状虫症、人食いバエなど） 第7回：経皮感染症（住血吸虫症、鉤虫症、糞線虫症、レプトスピラ症など） 第8回：経口感染性ウイルス性疾患（A・E型肝炎、ノロ感染症、ロタ感染症、急性灰白髄炎など） 第9回：経口感染性細菌性疾患（病原性大腸菌群感染症、細菌性赤痢、腸チフス、サルモネラ食中毒、コレラ、カンピロバクタ感染症など） 第10回：経口感染性寄生虫疾患I（アメーバ赤痢感染症、トキソプラズマ症、ランブル鞭毛虫症、回虫症など） 第11回：経口感染性寄生虫疾患II（鉤虫症、鞭虫症、肝吸虫症、肥大吸虫症、肝蛭症、異形吸虫症、肺吸虫症） 第12回：ほ乳類咬傷による感染症・性感染症（狂犬病、破傷風、Bウイルス感染症、パストツレラ感染症、HIV感染症、梅毒、淋病、クラミジア感染症など） 第13回：マラリア・デング熱簡易診断キットの使い方（実習を含む） 第14回：航空機中で引き起こされやすい疾患と予防、旅行保険の上手な入り方 第15回：トラベルワクチンの選択と接種プログラムの作り方					
【履修要件】					
高等学校で生物を履修していることが望ましいが、必須ではない。					
----- 熱帯病学(2)へ続く -----					

熱帯病学(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートの提出により評価を行う。レポートのテーマはまず受講生の調査地を必ず記載し、その地域で流行している疾患を記載し、その予防対策、感染時の対応を記載する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.who.int/ith/en/>(WHO International Travel and Health)
<http://wwwnc.cdc.gov/travel/>(CDC Travel Health)
http://www.forth.go.jp/tourist/useful/02_tokou_yobou.html(厚労省検疫所ホームページ)
<http://www.anzen.mofa.go.jp/>(外務省海外安全情報ホームページ)
<http://www.travelmed.gr.jp/>(日本渡航医学会トラヴェルクリニックリストホームページ)

[授業外学修(予習・復習)等]

講義の後、関連項目をWHOのInternational Travel and Health や米国CDCのYellow Book等の該当部分をインターネットで検索し復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー 金曜日12時～13時

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA02 52808 LJ31				
授業科目名 <英訳>	実践的開発協力論 Practical Development Cooperation	担当者所属・ 職名・氏名	アフリカ理解プロジェクト 白鳥 清志		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期集中
曜時限	集中講義	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
<p>この講義はアフリカの農業・農村開発における技術協力の実践的な経験と事例に基づいています。本来開発事業が目指したことと、プロジェクト実施中に起こる様々な出来事を題材にします。開発援助の概要を説明した上で、開発とは何か、受益者、現地行政官、開発員など関係者それぞれのリアリティ、開発ワーカーの考え、行動、役割、求められる能力などについて議論します。</p> <p>地域研究や農村開発に関心や疑問を持つ人が、開発援助プロジェクトの課題と可能性について理解を深め、開発援助に携わる者として、あるいは研究者として求められる知識、技術、態度、考え方について、より深く考えることができることを目指します。</p> <p>キーワード 開発と発展、援助、援助の潮流、幸福、生計、開発の当事者、参加型開発、参加型研究、在来知と近代技術、学際的アプローチ、シナジー</p>					
[到達目標]					
開発援助をクリティカルに考察できるようになる。					
[授業計画と内容]					
次のトピックをカバーします。					
1. はじめに（地域研究・文化人類学、開発研究、開発の実践） 2～4. 開発の目的、歴史、制度 1～3 5～10. 開発の事例 1～6 11～13. 開発の管理、計画、リアリティ、不確実性 1～3 14～15. 開発ワーカーに求められる能力と態度 1～2					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
講義への出席と、議論への参加で判断します。					
----- 実践的開発協力論(2)へ続く -----					

実践的開発協力論(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Amartya Sen 『自由と経済開発』(日経BPマーケティング) ISBN:978-4532148294 (貧困解消には経済発展と自由による可能性の拡大が必要)

Robert Chambers 『参加型開発と国際協力』(明石書店) ISBN:978-4532148294 (開発に関わる我々が変ることをを議論)

Robert Chambers 『開発の思想と行動』(明石書店) ISBN:978-4-7503-2495-1 (「参加型開発と国際協力」の続編で、開発の携わる者の責任と義務について議論)

JIRCAS 『ファームング・システム研究:理論と実践』(JIRCAS) ISBN:1341-3899 (日本におけるファームングシステムの詳細な解説と議論)

服部正也 『援助する国される国』(Chuokoron sha) ISBN:4120031047 (開発の携わる者の態度と考え方)

Paul Polack 『世界一大きな問題のシンプルな解き方 私が貧困解決の現場で学んだこと』(英治出版) ISBN:978-4862761064 (開発をビジネスマインドで考える)

和田信明・中田豊一 『途上国の人々との話し方』(みずのわ出版) ISBN:B00X3MR8AM (開発現場におけるコミュニケーションの方法)

Alem, D. et al. 『Farmer Research group: Institutionalizing Participatory Research in Ethiopia』(Practical Action Publishing) ISBN:978-1853399008 (エチオピアでの参加型農業研究の実践事例)

大熊孝 『技術にも自治がある』(農山漁村文化協会) ISBN:978-4540031076 (近代技術とコミュニティー)

佐藤仁 『野蛮から生存の開発論:越境する援助のデザイン』(ミネルヴァ書房) ISBN:978-4623076772 (特に日本の開発と開発技術を歴史的見地から検討)

関根久雄(編著) 『実践と感情:開発人類学の新展開』(春風社) ISBN:978-4861104695 (開発現場に関わる者たちの感情とその実践への影響などについて)

杉本和彦ほか 『アフリカから農を問い直す:自然社会の農学を求めて』(京都大学出版会) ISBN:978-4814004638 (アフリカの「自然社会の農学」という視点から、現代の農業問題を問う)

アルトゥーロ・エスコバル 『開発との遭遇 第三世界の発明と解体』(新評論) ISBN:978-4-7948-1201-8 C1036 (開発に対するオルタナティブを提示。開発そのものを問い直す。言説としての経済学、開発言説効果、開発幻想など重要な問いが並ぶ。)

(関連URL)

[http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/5065025E0/\(Ethiopia Farmer Research group Project II\)](http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/5065025E0/(Ethiopia%20Farmer%20Research%20group%20Project%20II))

[http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/\(Ethiopia Farmer Research group Project\)](http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/(Ethiopia%20Farmer%20Research%20group%20Project))

[http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/tech_ga/after/pdf/2004/hyouka_nougyo2_02.pdf\(Tanzania Kilimanjaro Agricultural Training Centre Project\)](http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/tech_ga/after/pdf/2004/hyouka_nougyo2_02.pdf(Tanzania%20Kilimanjaro%20Agricultural%20Training%20Centre%20Project))

[https://www.youtube.com/watch?v=f4L9X39fhFc\(FRG Approach - Together we can make it\)](https://www.youtube.com/watch?v=f4L9X39fhFc(FRG%20Approach%20-%20Together%20we%20can%20make%20it))

[https://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy/prosavana-jbm.html\(Prosavanna in Mozambique\)](https://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy/prosavana-jbm.html(Prosavanna%20in%20Mozambique))

実践的開発協力論(3)へ続く

実践的開発協力論(3)

[授業外学修（予習・復習）等]

上記および下の開発事例から質問のリストを作っておく。

- Project for Functional Enhancement of the National Rice Research and Training Centre
<https://sites.google.com/site/ethiorice/>
- Project for Enhancing Development and Dissemination of Agricultural Innovations through Farmer Research Groups (FRGs)
<http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/>
- Kilimanjaro Agricultural Training Center Project
<http://goo.gl/kpqxcE>
- Prosavana, MoFA
<http://www.jica.go.jp/project/mozambique/001/activities/>
- Prosavana, JVC
<http://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy/prosavana-jbm.html>

(その他（オフィスアワー等）)

現場での研究調査などを通じたみなさんの開発や援助に対する知識や経験をもとに、積極的な議論への参加を期待します。

どんなことでも問い合わせてください。

kiyoshi.shiratori@africa-rikai.net

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA02 52810 PJ31				
授業科目名 <英訳>	GIS分析実習 GIS Data Analysis	担当者所属・ 職名・氏名	東京都立大学都市環境学部地理環境学科 矢部 直人 准教授		
配当学年	1,2回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期集中
曜時限	集中講義	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
地理情報システム（GIS）は電子地図を扱うシステムであり、フィールド調査で集めたデータや、衛星画像などの既存のデータを地図上に表現し、分析することができます。GISの基本的な概念やソフトウェアの使い方を実習によって理解し、自分の研究で使えるようにすることを目的とします。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・GISの基本的な概念について理解する ・既存の地理情報を入手できる ・フィールド調査で集めたデータなどを地図上に表現することができる ・地図の重ね合わせなどGISを使った基本的な分析ができる 					
[授業計画と内容]					
<p>以下の項目について、履修者の理解の状況や研究テーマに応じて説明，実習をします。</p> <p>(1) GISの基本的な概念（2回） 地理情報の構成，ベクター形式，ラスター形式，地図投影法</p> <p>(2) GISソフト（2回） QGIS，Googleアース，Googleマップ</p> <p>(3) 既存の地理情報の入手（2回） 地球地図，DEM，衛星画像</p> <p>(4) フィールド調査による地理情報の入手（4回） ベクター形式のデータ作成，GPSの利用，ジオタグ</p> <p>(5) 基本的な分析（5回） 距離・面積の測定，バッファリング，オーバーレイ</p> <p>履修者の人数と研究テーマ，興味・関心に沿って，内容や順序を変更することがあります。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
説明内容の理解（30%），実習への主体的な参加（70%）によって評価します。					
----- GIS分析実習(2)へ続く -----					

GIS分析実習(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

浅見泰司・矢野桂司・貞広幸雄・湯田ミノリ編 『地理情報科学 GISスタンダード』（古今書院，2015）ISBN:9784772252867

橋本雄一 『二訂版 QGISの基本と防災活用』（古今書院，2017）ISBN:9784772231862

[授業外学修（予習・復習）等]

予習，復習には参考書に目を通すほかに，GISソフトウェアの操作を覚えるには反復が重要なため，GISソフトウェアを触ってみることをおすすめします。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA02 82812 PB31				
授業科目名 <英訳>	フィールド統計学 Statistics for Field Science	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 本郷 峻		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期集中
曜時限	集中講義	授業形態	講義と実習(対面授業科目)	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
<p>フィールド研究に統計学は必要だろうか？答えはあなたがフィールドで得た情報(データ)から何を表現したいかによって、イエスにもノーにもなりうる。しかし、どのような場合に統計学が必要で、どの統計手法が自身のデータに合っているのか、そして統計学的分析が前提とするデータの性質とは何かを知っておくことは重要である。</p> <p>本科目では、フィールド研究において統計学が必要な場合と不必要な場合を知るところから始め、統計学的な推定や検定、データの独立性とランダム・サンプリング、確率分布や回帰分析など、「フィールド研究者が利用する統計学」の基礎を学ぶ。また、実際の調査計画を立ててからデータの分析を行って結論を導くところまで、典型的なフィールド調査の例を用いて解説する。これら講義に加えて、無料の統計ソフトウェアRを用いた演習にも十分な時間をかけ、頭だけでなく手を使って統計学的分析の基礎を習得する。</p>					
[到達目標]					
<p>(1) フィールド研究において最低限必要な統計学的知識の基礎を理解する。</p> <p>(2) 統計学的処理(推定や検定)を前提としたフィールド調査計画をデザインできるようになる。</p> <p>(3) フィールド研究で典型的なデータの統計学的分析について、基本的な流れを理解し、Rを用いた分析の実行についておおまかに把握する。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. フィールド研究に統計学が必要になるとき：記述統計学と推測統計学 2. 推測統計学を使うための調査計画：データの独立性と無作為なサンプリング 3-4. 演習1：Rの基礎 5. 統計学的検定とはなにか 6. 確率分布とはなにか 7-8. 演習2：ブートストラップと無作為化検定 9-10. 一般化線形モデル(GLM)の組み立てとモデルの評価 11-12. 演習3：統計モデリングをやってみる 13-14. 一般化線形混合モデル(GLMM) 15. 演習4：実際のデータを使ったおさらい 					
[履修要件]					
特になし					
----- フィールド統計学(2)へ続く -----					

フィールド統計学(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点 (100%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Michael J.Crawley 『統計学：Rを用いた入門書 改訂第2版』(共立出版, 2016) ISBN:9784320111547 (ユーザーとして統計学を学ぶ人のための入門書。Rを使った実行例も豊富。)

粕谷英一 『生物学を学ぶ人のための統計のはなし: きみにも出せる有意差』(文一総合出版, 1998) ISBN:9784829921234 (生態学を専攻する学生に向けた入門書だが、会話形式で書かれており、どの分野の学生にとっても読みやすい)

久保拓弥 『データ解析のための統計モデリング入門』(岩波書店, 2012) ISBN:9784000069731 (初心者がGLMを学ぶならこの本。本講義では6章までの内容を扱う。この本ではRの基礎知識は前提となっている。)

大塚 淳 『統計学を哲学する』(名古屋大学出版会, 2020) ISBN:9784815810030 (一見すると統一的で客観的に見える統計学にも、実際には哲学や主義があり、決して万能でも絶対でもないことがわかる本。読むのにある程度の統計学的知識が必要となるが、読み物としてオススメ。)

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・高校数学の予備知識は必要としません。
- ・講義では全体として、数式を用いた正確な理解よりも、イメージとしての把握を目指します。
- ・したがって、数学的な理解をするためには参考書等で復習する必要がありますし、それを勧めます。
- ・演習の時間には各自のノートパソコンを使って、Rを動かします。以下のウェブサイトなどを参照して最新の "R" と "R Studio Desktop" をインストールしておいてください。

「R入門」

<http://ss.sguc.ac.jp/~rider/R/install.html>

「超初心者向けのRインストール」

<http://sgn.sakura.ne.jp/R/Rinstall.html>

「WindowsでのR/RStudioのインストール」

<https://okumuralab.org/~okumura/stat/R-win.html>

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA02 52851 SB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ地域研究演習 I Research Seminar on African Area Studies I	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アフリカ地域研究専攻全教員		
配当学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
アフリカ地域研究にかかわる基礎的な問題とそれに対するアプローチの方法についての演習をおこなう。					
【到達目標】					
アフリカ地域研究の特質を理解し、みずからの研究課題を設定する能力を身につける。					
【授業計画と内容】					
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。					
【履修要件】					
博士予備論文審査にまだ合格していない者。					
【成績評価の方法・観点】					
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 52852 SB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ地域研究演習 I I Research Seminar on African Area Studies II	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アフリカ地域研究専攻全教員		
配当学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
アフリカ地域研究にかかわる具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。また、博士予備論文のための研究に関する広い立場からの評価や指導をおこなう。					
【到達目標】					
アフリカ地域研究の特質を理解し、みずからの研究課題を設定する能力を身につける。					
【授業計画と内容】					
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。					
【履修要件】					
博士予備論文審査にまだ合格していない者。					
【成績評価の方法・観点】					
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 72853 SB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ地域研究演習ⅠⅠⅠ Research Seminar on African Area Studies III	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アフリカ地域研究専攻全教員		
配当学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
アフリカ地域研究にかかわる総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。					
【到達目標】					
アフリカ地域研究における研究課題を設定し、その成果を統合的に整理して提示することができる。					
【授業計画と内容】					
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。					
【履修要件】					
博士予備論文の審査に合格した者。					
【成績評価の方法・観点】					
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 72854 SB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ地域研究演習IV Research Seminar on African Area Studies IV	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アフリカ地域研究専攻全教員		
配当学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
アフリカ地域研究に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。					
【到達目標】					
アフリカ地域研究における研究課題を設定し、その成果を統合的に整理して提示することができる。					
【授業計画と内容】					
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。					
【履修要件】					
博士予備論文の審査に合格した者。					
【成績評価の方法・観点】					
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 62801 GB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies I	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・通年不定
曜時限	その他	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
博士予備論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、フィールドワークの視点と方法を練り上げるための演習。					
【到達目標】					
博士予備論文に関する基本的事項を理解する。					
【授業計画と内容】					
指導教員の3名が、学生の博士予備論文の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。					
【履修要件】					
博士予備論文審査にまだ合格していない者。					
【成績評価の方法・観点】					
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 72802 GB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies II	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員		
配当学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・通年不定
曜時限	その他	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
博士論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、学際化と研究内容の深化を図るための演習。					
[到達目標]					
博士論文に関する基本的事項を理解する。					
[授業計画と内容]					
指導教員の3名が、学生の博士論文準備の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。					
[履修要件]					
博士予備論文審査に合格した者。					
[成績評価の方法・観点]					
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
[教科書]					
授業中に指示する					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
[授業外学修(予習・復習)等]					
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 72803 GB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies III	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員		
配当学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・通年不定
曜時限	その他	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
博士論文の作成に向けて、そこで提起された個別課題に関する学生の研究内容について討議し、それをさらに総合化・深化させるための演習。					
[到達目標]					
博士論文に関する事項の理解を総合化・深化させる。					
[授業計画と内容]					
指導教員の3名が、学生の博士論文作成の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。(博士學位論文申請資格確認と博士論文作成指導を含む。)					
[履修要件]					
博士予備論文審査に合格した者。					
[成績評価の方法・観点]					
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
[教科書]					
授業中に指示する					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
[授業外学修(予習・復習)等]					
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 52804 FB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar I		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員	
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・通年不定
曜時限	その他	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
生態・社会・文化に根ざした地域の固有性を理解するとともに、地域が直面する現代的諸問題を研究課題として発見するためのフィールドワークの手法を習得する。					
【到達目標】					
フィールドワークに関する基本的事項を理解する。					
【授業計画と内容】					
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。					
【履修要件】					
1年次に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf					
【成績評価の方法・観点】					
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析が求められる。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 62805 FB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar II		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員	
配当学年	2-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・通年不定
曜時限	その他	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう手法を習得する。					
【到達目標】					
自らの研究テーマを発展させるための応用的なフィールドワーク手法を身につける。					
【授業計画と内容】					
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。					
【履修要件】					
2年次以降で博士予備論文提出前に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf					
【成績評価の方法・観点】					
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析が求められる。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 72806 FB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar III	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員		
配当学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・通年不定
曜時限	その他	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
<p>【授業の概要・目的】 フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、国際機関やNGO、研究機関等において研究発表や討論をおこなうとともに、必要に応じて研究課題に即した実践活動をおこなう。</p>					
【到達目標】					
フィールドワークに関する事項の理解を総合化・深化させる。					
【授業計画と内容】					
学生は教員とともに研究発表や実践活動の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地でそれを行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。					
【履修要件】					
<p>博士予備論文提出後に臨地教育を受けた者（インターンシップを含む）。ただし、博士予備論文提出後、そのセメスター内に臨地教育を受けた者は臨地演習 の単位とする。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</p>					
【成績評価の方法・観点】					
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>					
【授業外学修（予習・復習）等】					
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析，応用が求められる。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					